

建設企業常任委員会行政視察概要

平成30年7月25日（水）

於 福山市議会 第1会議室

12:55～14:20

1 調査概要・説明……………福山市都市交通課長補佐兼次長

福山市道路・幹線道路課推進担当次長

「歩道・自転車走行空間整備について」

福山市は、福山駅を中心とした概ね5キロメートル圏内において、自転車通行空間の整備が行われている。取り組みのきっかけは、千人あたり自転車事故件数が広島県内において福山市がワースト2であったこと、該当範囲内には平地が広がっていることで自転車が利用しやすい環境にあること等である。

取り組み内容は、自転車専用の走行空間を設け、自転車と、自動車、歩行者とを分離するもので、特に車道での対策は、路肩のカラー化やピクトグラム設置により走行空間の明確化を図っている。また、広報活動としては、広報誌への掲載、地元住民へのチラシ配布等である。その他、自転車利用環境の改善のため、レンタサイクルを行っており、稼働率は100%以上（1台当たり1日1回以上）である。

ただ、福山駅周辺には自転車駐輪場が少なく、市営の定期利用は常に順番待ちの状態であり、違法駐輪が多くなっているが、新たに駐輪場を設置するスペースがない点が課題となっている。



2 主な質疑応答

問 警察と連携した取り締まり等を行っているか。

答 自転車の歩道走行禁止の市民理解が得られていないため、厳しい取り締まりは行えていない状況である。

問 車道に矢羽根型のピクトグラムを設置することで路上駐車は減少したか。

答 通勤時間帯の路上での荷捌きは減ったと思われる。

問 狭い道路であっても、自転車の車道通行を認めているのか。

答 幅員に関わらず、自転車は車道、歩道走行が認められている。狭い道路では、矢羽根型を設置していても歩道を走る自転車が多い傾向がある。

問 シェアサイクルとレンタサイクルはどのように住み分けするのか。

答 シェアサイクルは今後実施予定の事業であるため、詳しい住み分けまでは考えられていない。シェアサイクルが広がればレンタサイクルの廃止もあると考えている。

問 センターラインがないような狭隘道路に矢羽根型を設置することにより、車同士の接触事故が増えたということはないか。

答 そのような影響は聞いていない。ただ、ある区間では、ピクトグラムを設置することで自動車の平均速度が下がり、時速30Km以下となっている。時速30Km以下であれば、死亡につながる可能性は極めて低くなる。

問 当該事業の数値的な目標、チェック項目は設定しているか。

答 目標が設定できていないところが課題である。福山市内の自転車事故件数は、平成20年が896件であったものが、平成29年には344件と減少しているが、これは全国的にも同様の傾向が見られるため、取り組み結果によるものと言い切ることはできず、事業効果を図る物差しがない状況である。

以上